

国連食料システムサミット2年後フォローアップ会合結果概要



- 日時・場所 2023年7月24日（月）～26日（水）
- 主催者 アントニオ・グテーレス国連事務総長
- 場 所 国連食糧農業機関（FAO）（イタリア政府がホスト）
- 目 的 2030年までのSDGs達成に向けた「行動の10年」の一環として、食料システム（注）を改革するための行動を導くための方途を議論し、関係者の連携・協力を促進する（注）食料システムは、食料の生産、加工、流通、消費などに関わる様々な活動を意味する。
- 出席国 我が国から**勝俣農林水産副大臣**が政府代表として出席。イタリア首相、ドイツ連邦食料・農業大臣等、150か国以上が参加し、国際機関、民間企業、市民社会などからも多くの関係者が参加。

➤ サミット概要

国連事務総長による報告書の発表

✓この2年間の進捗

国連事務総長は、食料システム変革に向けた進捗状況の報告について分析し取りまとめた報告書を発表。67%の国が国家戦略やセクター別計画に、食料システム変革に向けた道筋（National Pathways）の策定ビジョンを統合し、半数の国は食料システムを気候変動に早急に適用させ、環境面の強靱性を推進する必要性を認識。コアリションは、世界レベル・地域レベル・国レベルにおいて多方面で支援。国連機関では、食料システムを優先事項として位置づけ、中核的な業務分野への統合、財政支援の推進・強化など。



プレナリーセッションで発言をする勝俣農水副大臣

✓次回フォローアップ会合までの優先事項

2年後の会合に向けては、能力構築や適切な資源配分、定期的な評価、ジェンダー平等の達成などが重要。ロードマップとして、優良事例の共有や、**本年5月のG7広島サミット**では、**民間セクター・小規模生産者連携強化（ELPSイニシアティブ）の立ち上げ**に加え、「**強靱なグローバル食料安全保障に関する広島行動声明**」が発表された。

国連食料システムサミット2年後フォローアップ会合での我が国の発言

プレナリーセッション

- 「みどりの食料システム戦略」及び同戦略に基づく取り組みの紹介
- G7宮崎大臣会合やG7広島サミットでの成果として以下の点を強調
 - ・ 生産性向上による、農業の持続可能性の向上
 - ・ 既存の国内農業資源を最大限活用
 - ・ 持続可能な農業の達成に向けて、イノベーションの活用を強化・推進
- 水田からのメタン抑制技術を紹介し、地域に合った技術実装の重要性を強調
- 様々な関係者との対話を推進



プレナリーセッションで発言をする勝俣農水副大臣

リーダーズ対談

- **和食**は、**栄養面**で優れており、カロリー摂取の抑制・肥満防止に寄与
- **和食**は、日本の文化や伝統を表し、**地域社会や文化の保護、環境面**で貢献
- 地域産物を用いた食事は、**地域資源の有効活用、地域の活性化**につながり、**SDGs**に即したものの



リーダーズ対談で発言をする勝俣農水副大臣

我が国主催の公式サイドイベント

- 「みどりの食料システム戦略」に基づく、**食料システムの各段階での取り組み**の紹介と、**同戦略の実現を後押しするための取り組み**として以下を紹介
 - ・ 戦略に資する事業支援の法律等整備、スマート農業技術の開発事例
 - ・ 生産段階の環境負荷低減の努力を「見える化」して消費者に伝達
- 日本は、**アジア・モンスーン地域**をはじめ、**世界の持続可能な農業・食料システムの構築に貢献**



我が国主催のサイドイベントで基調講演を実施した勝俣農水副大臣

スペシャルイベント

- 水野農林水産省輸出・国際局長より、IFAD主催のイベントにおいて、**途上国の小規模農家と民間企業の連携**を促進する**ELPSイニシアティブ**を本年度我が国がG7議長国としてIFADと共同で立ち上げたことを紹介。

国連食料システムサミット2年後フォローアップ会合 プログラム

7月24日（月）			7月25日（火）			7月26日（水）		
プレナリー会合	リーダーシップ 対話	スペシャル・イベント	プレナリー会合	リーダーシップ 対話	スペシャル・イベント	プレナリー会合	リーダーシップ 対話	スペシャル・イベント
[ハイレベル会合] フードシステムの変革 を推進する学校給食	健康食・ 文化・伝統	食料システム変革の 進捗	[プレナリー1] 食料システム変革の 実施－成功、 挑戦、今後	人々のための 食料システム	海洋（水産）変革	[プレナリー3] 食料システム変革 実施の手法	食料システムの パートナー シップ	食料システムのための 宇宙技術
		食料の真のコスト		アフリカの 食料主権構築	貿易			
[ハイレベル会合] 食料システム変革への 金融支援	コアリション による支援	農業投入財（肥料）		地球のための 食料システム	食料システム変革 の管理		ナショナル・ コンピーナーの 権限強化	SDGファンドの 食料システム分野の 開始
		サイドイベント			サイドイベント			サイドイベント
開会セッション （国連事務総長など 出席）			[プレナリー2] 食料と飢餓の 危機を覆す： 強靱な食料システム の構築	繁栄のための 食料システム	強靱な食料システム のためのデジタル化	[プレナリー4] SDGサミット、将来 のサミット及び 2025UNFSS+4へ	食品ロス 防止と削減	先住民と食料システム
				強靱な食料システム のためのバリュー・ チェーン				
[ハイレベル会合] 食料システムと 気候対応	ステークホル ダーによる 円卓会議	食料システム変革の ための都市の役割		科学、技術及び イノベーション	民間セクター		閉会	

食料システムコアリション

2021年の国連食料システムサミットに関連して立ち上げられた**有志グループ**。

コアリションのメンバーは各国政府、国際機関、NGO等であり、**食料システムに関連する特定のテーマについて活動を実施**。いずれのコアリションも、食料システム変革のための各国の計画（ナショナルパスウェイ等）を支援し、2030年までに持続可能な開発目標（SDGs）の達成を促進することを目標とする。

2023年7月現在、**28のコアリションが存在**し、日本は以下に記載の3つのコアリションに参加。

海洋ブルーフード

- 目標：食料システム変革の議論や政策決定において水産物を積極的に扱うこと、またそれに取り組む国に対して投資や技術協力などを行うこと。
- リーダー：アイスランド、EDF（環境防衛基金）他
- メンバー：アフリカ連合、カナダ、EU、フィジー等の10カ国 他



学校給食

- 目標：2030年までに全ての子どもが学校で毎日、健康的で栄養価の高い給食を食べられるようにすること。
- リーダー：メンバー国によるタスクフォースにより運営
- メンバー：国連世界食料計画(WFP)、デンマーク、フィンランド、ケニヤ、中国、UAE、ブラジル等の78カ国 他



食料安全保障と資源保全のための持続可能な生産性向上

- 目標：農業の持続可能性を最適化する生産性向上を通じて、より持続可能な食料システムへの移行を加速すること。
- リーダー：米国
- メンバー：国連食糧農業機関(FAO)、国際とうもろこし・小麦改良センター(CIMMYT)、豪州、EU、英国、トルコ、フィリピン、ベトナム等の21カ国 他

